

2017年7月14日

立教大学国際学術研究交流制度
2017年度「招へい研究員」報告書

1. 招へい概要

受入 教員	所属・職	異文化コミュニケーション学部・教授
	氏名	武田 珂代子
受入学部・研究科・研究所		異文化コミュニケーション学部
招へい 研究員	所属・職	Full Professor, Institute of Applied Linguistics, University of Warsaw 協定の有無：全学 所在国：ポーランド
	氏名	Małgorzata Tryuk
招へい期間		2017年5月29日～2017年6月10日（13日間）
研究経費		373,920円

2. 滞在中の活動

来日および離日を含め、滞在中の活動を記入してください。全日程（毎日）記載する必要はありません。講演会やセミナーなどを開催した場合はタイトル、会場、参加者数等を記載してください。

活動内容記入例) ○○について研究討議、共同研究、講演、講義、大学院生への研究指導等

年月日	活動内容
2017年5月29日	来日
2017年5月31日	異文化コミュニケーション研究科および同学部の学生と教員を対象に、「ポーランドにおける翻訳通訳教育」と題するセミナーを開催し、討議した。参加者数：約20名。
2017年6月4日	異文化コミュニケーション学部主催の公開映画上映・講演会「Cinematic Imagination of War and Human Condition」で、『アウシュビッツの女囚』を上映した後、「アウシュビッツ収容所通訳者と倫理」と題する講演を行い、同イベントのもう一人の講演者であるスンミー・ヨー氏との座談会でも発言した。参加者数：約90名。
2017年6月7日	異文化コミュニケーション研究科および同学部の学生と教員、その他を対象に、「ポーランドにおけるコミュニティ通訳」と題するセミナーを開催し、討議した。参加者数：約20名。

2017年6月7日	離日
-----------	----

3. 研究・交流状況および成果

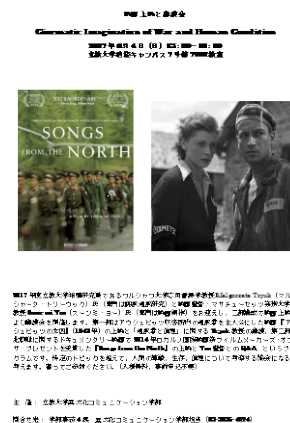
上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果を、本学の学術研究、教育活動、国際交流の進展へ与える効果を含めて、記載してください。講演会やセミナーなどの参加者層（学生、大学院生、一般、教職員等）、会場の様子なども記載してください。

通訳研究（Interpreting Studies）では、近年、通訳の歴史的研究とともに、戦争・紛争下の通訳者に関する研究が盛んになっている。特に、ハーグなどでの国際刑事裁判、アフガニスタン、イラクでの戦争などを背景とし、歴史上の、特に20世紀における戦争に関わった通訳者の履歴、役割、倫理的問題などの考察を通して、現在の軍事言語担当者（military linguists）が直面する課題を分析しようとする試みが注目を集めている。その中で、ワルシャワ大学応用言語学研究所教授の Malgorzata Tryuk（マルゴジャータ・トリーウック）氏はナチス強制収容所内および戦犯裁判の通訳の研究を通して、通訳者の倫理に関する考察を行ってきた。受け入れ教員である武田珂代子は日本軍通訳者および東京裁判・BC級戦犯裁判における通訳、特に戦犯としての通訳者の研究に取り組んでおり、Tryuk 氏の研究とは相補的な関係にある。今回、戦時通訳者に関する互いの知見を共有し、意見の交換ができたことは大きな成果だった。第二次世界大戦と通訳者の関係について、より包括的な議論が展開できたと考える。今後、共著論文などの可能性を話し合う予定である。

戦争下の通訳者の倫理的な問題については、公開講演会の場でも討議することができた。同時期に招聘されたマサチューセッツ芸術大学のスンミー・ヨー氏（映画監督）と受け入れ教員であるイ・ヒャンジン教授とともに、「Cinematic Imagination of War and Human Condition」と題した映画上映会・講演会を開催し、立教内外から約90名の参加者を得た。アウシュビッツ収容所内の実在の通訳者をモデルとした映画『アウシュビッツの女囚』を上映した後、Tryuk 氏が講演を行い、収容所内の極限状況下で通訳をせざるを得なかったユダヤ人の辛苦とともに、通訳者としての「パワー」を利用した能動的な行動にも触れ、通訳者の「公平性」や「中立性」に対する疑問を投げかけた。ちなみに、講演会で使用した資料や Tryuk 氏論文の英日翻訳は、立教コミュニティ翻訳通訳（Rikkyo Community Language Service, RiCoLaS）の学生によるもので、参加者から好評を得た。

Tryuk 氏はポーランドにおける翻訳者・会議通訳者訓練教育のリーダー的存在でもある。立教の院生、学部生、教員を対象に、翻訳通訳教育に関するセミナーを開催し、ポーランドにおける翻訳通訳市場および大学における翻訳者・通訳者養成の状況に関する講演を Tryuk 氏にいただいた。ポーランド国内で翻訳者・会議通訳者の専門教育を提供する大学が数校あり、ワルシャワ大学では、日本語を含め、極めてレベルの高い学生を対象とした本格的な訓練を行っている様子が理解できた。また、スペインの大学などと協力して、遠隔通訳の演習を行っている事例を知り、立教大学における適用のヒントを得た。

さらに、ポーランドで初めてコミュニティ通訳研究に取り組んだ実績に基づき、Tryuk 氏



にポーランドにおけるコミュニティ通訳の現状について話していただくセミナーを催した。立教内の院生・学部生・教員だけでなく、コミュニティ通訳を研究している他大学の学生および教員も参加し、中身の濃い討論ができた。特に、旧ソ連圏、旧ユーゴスラビア圏、ベトナムなどからの移民や難民を対象とした通訳のニーズが増えている一方、ボランティア通訳者に依存する問題がある点など、日本の状況との比較も含め、活発な議論が展開された。また、妊婦に情報提供するためのパンフレットの多言語バージョンは日本でも応用が可能だと受け止めた。

招聘期間中、Tryuk 氏は、受け入れ教員の武田だけでなく、異文化コミュニケーション学部以外の教員や学生、また他の招聘研究者と情報や意見の交換を続けた。今後、Tryuk 氏をはじめとする研究者や学生を含め、ワルシャワ大学と立教大学との学術交流が続くことを期待している。